

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2021年4月10日フードパントリー事前準備報告

2021/5/4 中京大学 成ゼミ4年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生協すまいるハートビル2F

開催日時：現在は日曜開催(土曜日に袋詰め作業、日曜日に配布) この日は10:00から50分ほど

4月11日配布分の中身：白米、(菓子パン)、レトルトカレー、ペットボトル飲料、ティーパック、お菓子 …中身は多少異なるとのこと。

今回の自分の大まかな流れ：袋詰め作業→解散

4月10日(土)にわいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。翌日11日のあじま診療所での食品配布分の事前準備として、袋詰め作業の手伝いをした。普段通りであれば、上飯田と味鉢の各2箇所分(150食×2箇所)で計300食を作るが、今回は味鉢分だけ作った。事前に袋詰めの日程を設けなくとも、配布当日の直前に袋詰めできるのでは、ということで、18日の上飯田は、この日の配布直前に袋詰めを試みるらしい。後日杉崎さんに教えてもらったところ、上手くできたそうで今後は当日の朝に袋詰めすることになった。確かに、配布開始11時の1時間前から会場に着いても、1時間特に何もせず待機することも多いため、袋詰めの仕事を与えられるのは私としてもありがたいし、時間の有効活用もできる。ちなみに、袋詰め+配布の前日に、食品の数量などの調節はメンバーの方がやっておいてくれるそう。わいわいでフードパントリーの活動が始まり1年が経ち、細かなルール変更や工程の変化が見られる。反省を活かし、改善の積み重ねでわいわいのパントリーはさらに良いものになって来ていると私自身も思う。

実は今回私は、定刻10:00より20分遅刻の参加となってしまった。今後は気をつけたい。会場に着いた時には、袋詰めはすでに開始されていたため、作業にすぐ加わった。

相変わらずダンボールが大量だったため、ダンボールを解体するサポーターも大変そうだった。



今回作ったのは150食のみだったため、比較的すぐ袋詰めは終わった。袋詰めが終わったものは、わいわいルームから、生協病院外の車まで、荷台とエレベーター等使って運んだ。いつもこの作業は体力的に疲れる。ちなみに以下写真の車は、北医療生協のものである。このように、北医療生協は積極的に車出しを行っている。さらに、過去の味鉢での青空食堂の際パイプイスを貸し出ししてくれたり、時には街宣カーを出してくれたり。そもそも北医療生協のわいわいルームがなければ、袋詰め作業もできていない。改めて、北医療生協の力の偉大さみたいなものを感じた。今後もわいわいに関わっていこうと思う。



名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2021年3月21日フードパントリー報告

2020/4/14 中京大学 成ゼミ4年 c318079 藤本涼花

開催地：あじま診療所駐車場

開催日時：現在は日曜開催 11:00～無くなり次第終了

3月21日のフードパントリー：白米、菓子パン、卵、缶詰、フルーツカップ、ペットボトル飲料、アルコールハンドスプレー、お菓子など…中身は多少異なるとのこと。



今回の自分の大まかな流れ：事前袋詰め作業→会場設営準備→待機→食品配布（撮影と誘導）→会場撤去作業→反省会→解散

3月21日(日)にあじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。この日は激しい雨に見舞われ、天候が悪かった。わいわい開催日での天候の大荒れは初めてだったらしい。10:00前に会場に着くと、若いサポーターが7人ほど見られた。のちに、普段からわいわいに協力的なエナジール株式会社さんからのお手伝いさんだと判明した。早速水野さんから、事前準備の説明が始まった。菓子パンと次回開催の用紙を袋詰めするよう指示があった。



普段であれば食品の入った袋はダンボールの中に一時的に保管されているのだが、今回は雨のせいでダンボールを地面に置けないため、袋は全て机の上に置かれた。机の面積に対し袋が大量だったため、窮屈に袋詰め作業を行うことになった。天候が晴れの時と比べ雨だと作業も円滑に取り組むのが難しいと、この日は思った。

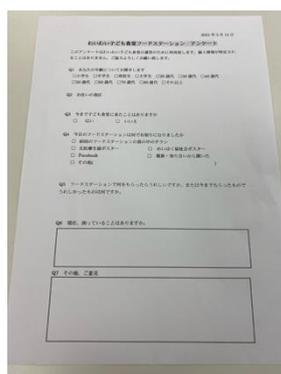


開始 20 分前に行列を確認しに行ったところ、以下の写真のようになっていた。



顔ぶれとしてはやはり高齢者がほとんどだった。先頭に並ぶのはいつも同じ高齢女性(帽子を被りトートバッグを肩にかけ、読書しているときもある。)であると、これまでの過去の記録写真を見て判明した。

また、今回は雨よけのためにと、建物の下へ利用者たちには並んでもらった。最近のわいわい(上飯田と味鉢の両方)では行列への対処として、「最後尾」のプラカードを持ったサポーターを常に配置するようになった。また今回も先週の上飯田に引き続き、簡単なアンケートを行った。「ご寄付ありがとうございます」の張り紙をつけたり、袋の中身の記録写真を撮ったりした後は、開始時間 11:00 まで待機した。



定刻の 11:00 になり配布が始まった。エナジールさん・県大学生さんたち若者が配布に専念していたので、私は記録写真撮影と利用者の誘導を行うことにした。今回は来てくれた



子どもにはお菓子のプレゼントをした。めいほく共同作業所からのものだった。

用意したおよそ 150 袋はみるみるうちに姿を消していくのに、行列はまだある状態であった。最後尾の人たちに向けて、「せっかく並んでいただきましたが、準備分が足りずお渡しできなかった場合はご了承ください」と言ってきて、と水野さんから頼まれたので、私はそのようにした。今回も 150 袋がなくなってからは、残っている食品でなんとか数増しをし、手渡した。



今回も10分ほどで全て配布した。その後すぐ会場の撤去作業へ移った。フードパントリーの紙看板を剥がしたり、使った長机を運んだり、集まったアンケートを見したりもした。アンケートには「米が助かる」という声が圧倒的多数であった。片付けも済んだところで反省会をした。

反省会のメインはドライブスルーについてだった。先週の上飯田と同様に、今回も「ドライブスルーはありません」の手持ち看板を持って対応にあたっていたものの、上飯田のようにうまくいかなかった。



具体的には、隣の飲食店の駐車場に無断で停めるパントリー利用者がちらほらいたために、飲食店店長が直接私たちサポーターのもとにやって来て苦情を言いに来たそうだ。これに関しては、ドライブスルー廃止決定と開催のお知らせ用紙のミスマッチが大きな原因であると、サポーター一同言っていた。要するにドライブスルー廃止の旨を、タイミング良く次回開催のお知らせ用紙に明記できなかったのだった。利用者のマナーの悪さも少々あったにせよ、今回のケースは仕方のないことなのかもしれない。次回のあじまわいわいには参加できないが、ドライブスルーに関しては心配な要素である。当日の様子は河野さんに聞いてみようと思う。今後も時間の限りわいわいのフードパントリーに関わっていこうと思う。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2021年3月14日フードパントリー報告

2021/4/13 中京大学 成ゼミ 4年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生活協同組合北病院北側

開催日時：現在は日曜開催 11:00～無くなり次第終了

3月14日のフードパントリー：白米、菓子パン、フルーツカップ、ペットボトル飲料、アルコールハンドスプレー、お菓子など…中身は多少異なるとのこと。



今回の大まかな流れ：事前袋詰め作業→会場設営準備→待機→食品配布→会場撤去作業→反省会→解散

3月14日(日)、わいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。この日は一つ下の弟も参加させた。10:00前に会場に着き、早速わいわいルームで菓子パンと次回開催案内用紙を袋詰めし、袋を結ぶ作業に移った。わいわいでは、袋の中でつぶれないようにと、菓子パンは配布直前に袋詰めするきまりになっており、お馴染みの作業となっている。作業の途中に私と弟は水野さんに呼ばれ、配布所の机設置をすることになった。北医療生協から50mほど離れた収納コンテナまで机を取りに行き、配布所まで運んだ。わいわいでは、安定的に参加できるサポーターの年齢が高い水準にある。そのため、力仕事関係は若者が進んで行うべきと私も考えているし、水野さんの采配はいつもの確だと毎回感じる。

わいわいルームに戻ると、全て袋詰めは完了していたようだったので、それらはパソコンテナやダンボールに入れられていた。それらをそのまま荷台やエレベーターを使って外まで運ぶ作業に私たちも移った。看板や机、ホワイトボードなどの準備もすでに整っていた。今回もこの食品を運ぶ力仕事だけでヘトヘトになってしまった。

10:30頃に大体の準備が終わった。配布開始の11:00までは、ボランティアサポーターらは待機ということだった。

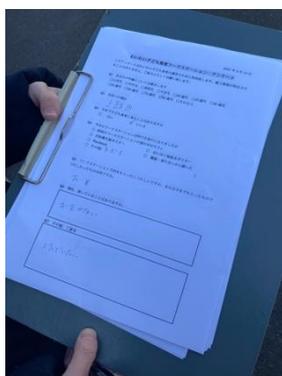
開始30分前の時点ですでに列ができ、10分前にはこのように人で溢れかえっていた。



顔ぶれとしてはやはり、高齢者が多かった。配布開始直前にはこのようにして、道路をまたいで並んでもらうことになった。

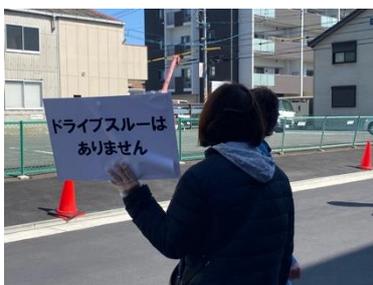


この日は、わいわい独自で簡単なアンケート調査を行った。質問項目は年齢、住んでいる地区、困りごと等である。



配布したアンケート用紙

また、この日よりドライブスルーは廃止の方向になった。役員会議でそのように決めたそう。



11:00 になり、定刻通り配布開始した。私は、撮影係に徹した。配布する様子をずっと見ていたが、高齢者ばかりでなく、親子連れもいた。開始 10 分ほどで用意分 150 袋全て配布しきった。そのまま流れで撤収に移ったが、その後も 3 組ほど利用者がやって来たため、その場にあるものを詰め合わせて作った袋を利用者には持って帰ってもらった。



配布する様子

片付けも終わり、わいわいルームにて反省会をした。今回の反省会では、アンケートの結果概要とドライブスルーについてがメインだった。アンケートでは、「米が助かる」という声が圧倒的多数だった。ちなみに、わいわいでは(あじまわいわいも合わせ、)お米には、1ヶ月につき4万円ほど使っているそう。「お金が足りない」「仕事が見つからない」といった深刻な声から、「食品の量、配布回数を増やして欲しい」という要望まで、様々な内容が集まった。

また、前日の袋詰めの人数が20人を超えたのはさすがに密ではないかと指摘もあった。前日の準備も私は参加していたが、同様に感じていた。この場では、お米の仕分けの日と袋詰めの日を分ける方向でサポーター人数を分散させるという結論に至った。

また、やはり高齢者が多いという声もスタッフから上がった。味鉢よりマナーが悪い人は上飯田にはさほどいないという声もあった。確かに味鉢と上飯田のわいわい両方に参加している身としては、マナーの違いに関しては頷ける部分である。この時、杉崎さんが言った「私たちは、利用者の善意を信じてやっていくしかない」というセリフが、今も鮮明に思い出される。

ドライブスルー廃止に関しては、良い結果になったのではと前向きな発言があちこちから目立った。誤って車で来てしまい、一旦家に車を置いてから再度参加してくれる理解のある利用者もいたそうだ。今後もドライブスルー廃止の方向で活動を進めていくという。ただ、来週の味鉢でのドライブスルーが不安材料だと指摘された。事前案内にドライブスルー廃止の旨を記載していないためである。来週の味鉢にも参加する予定なので、ドライブスルーに気をつけながら手伝おうと思う。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2021年3月13日フードパントリー事前準備報告

2020/3/22 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生協すまいるハートビル2F

開催日時：現在は日曜開催(土曜日に袋詰め作業、日曜日に配布) この日は14:00~1時間ほど

3月14、21日配布分の中身：白米、菓子パン、缶詰、カップゼリー2個、ペットボトル飲料、アルコールハンドスプレー、お菓子…中身は多少異なるとのこと。

今回の自分の大まかな流れ：袋詰め準備→袋詰め説明→袋詰め作業→ミーティング→解散

3月13日(土)にわいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。翌日の北医療生活協同組合北病院北側と来週のアじま診療所での食品配布分の事前準備として、袋詰め作業の手伝いをした。14:00前に会場に着いた時には、袋詰め開始に向けた準備が進められていた。先に作業するメンバーに混じり私も、食品類のダンボールを隣の部屋に持ち運び移動させた。普段袋詰め作業する部屋が、北医療生協歯科の職員さん方の会議で使われるためであった。

円形に配置された長机には、相変わらず大量のダンボールが並べられることになった。



今回はちょうど300食分の袋詰めをすることだった。そして、杉崎さんから何をいくつかの袋に詰め込んでいくかの説明を受けてから、実際に全員で流れ作業で袋詰めに取りかかった。小さめの空きダンボールを解体する作業もその都度行った。大きめの空きダンボールは、袋詰め完了した袋を保管するために使った。



小さなダンボール



大きなダンボール

15:00前には300食分全て作り終わった。



150 食分

そのまま翌日に向けた軽いミーティングに移った。明日の配布前に、次回(4月)の開催日程の紙と菓子パンを袋詰めするそう。また、明日はドライブスルーを無くし、利用者には全員列に並んでもらうという話があった。事前のお知らせ等には、「ドライブスルーせず」の内容変更はもちろん書いたらしいが、当日実際に車で来る利用者もいるかもしれない。翌日の配布にも参加するので着目してみようと思う。さらに、明日は参列者を対象にアンケートをとるらしい。どこから来ているか、今何に困っているか、わいわいへの要望など聞くそう。また今後私も Facebook 更新の補佐をすることに決まったため、写真撮影を怠らないようにしていこうと思う。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2021年2月28日フードパントリー報告

2021/3/22 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生活協同組合北病院北側

開催日時：現在は日曜開催 11:00～無くなり次第終了

2月28日のフードパントリー：白米、果物、菓子パン、調味料、ケーキなど…中身は多少異なるとのこと。

今回の大まかな流れ：事前袋詰め作業→会場設営準備→食品配布→会場撤去作業→解散

2月28日(日)、わいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。10:00頃会場に着くと、成ゼミ生だった最上さんに会えた。私たち2人は、わいわいルームで作業が行われていると聞き、菓子パンと次回開催案内用紙を袋詰めする作業に移った。わいわいでは、袋の中でつぶれないようにと、菓子パンは配布直前に袋詰めするきまりになっている。



全て袋詰め完了したものは、パンコンテナやダンボールに入れられ、そのまま荷台やエレベーターを使って外まで運んだ。外にはすでに、それらを置くためのブルーシートがすでに敷かれていた。看板や机、ホワイトボードなどの準備もすでに整っていた。この食品を運ぶ作業がなかなかの力仕事で疲れるが、今日も配っていくぞという気持ちになれる。

配布開始の11:00までは、ボランティアサポーターらは待機ということだった。敷島製パンの執行役員の方がいらしており、就活に関するお話しなどできる機会もあった。開始30分前の時点ですでに利用者たちが列をなしていた。顔ぶれとしてはやはり、高齢者が多かったが、味鮎とは違い親子連れの割合が高かったと個人的には感じた。



定刻通り配布開始した。私は、ケーキを個別に配る役割をした。ドライブスルーの利用者にもケーキをお渡しした。配布開始直前に水野さんからサポーター全体へ、「行列はすごいです、慌てて配らなくても大丈夫です」という言葉があり、かなり安心した気持ちで配ることができた。

いつも通り用意分全て配布しきることができたが、終盤あたりから10袋弱ほど足りなく

なったため、その場にあるものを詰め合わせて作った袋を利用者には持って帰ってもらった。「せっかく来てもらったのに、手ぶらで帰ってもらうのはなんだか心苦しいし申し訳ない」という思いのサポーターが多い。即座に詰め合わせを作る行動に移るサポーターもいる。ちなみにわいわいでは、今後パントリー利用者がどれだけ増加しようとも、「150袋」以上を作ることはないという。さらに150袋以上増やすとキリがないという理由からである。パントリーにおける需要と供給が、以前よりもズレが生じてきているように思う。

全て配り終えてからは片付け、反省会をした。今回の反省会では特に、交通整備について話し合われた。渡し終えた利用者の誘導が不十分だったために、行き交う利用者らがドライブスルー利用者の車の通行の邪魔になっていたようだ。交通整備のスタッフを1、2名配置する案や、いっそのことドライブスルーをやめてしまうという案も挙がった。次回開催までに役員会議で決議されるという。個人的にはドライブスルーをなくす案に賛成だ。交通の安全が確保されるからだ。交通整備のスタッフを置く必要もなくなり、他の役割に配置することもできる。また、事前のお知らせでドライブスルーの全面中止を記しさえすればよい。反省会での課題点が、次回の活動をさらに良いものにできる可能性に繋がると考えると、やはり反省会の重要性を強く感じる。次回も参加し、記録にして残したい。

名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2021年2月21日フードパントリー報告

2020/3/22 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：あじま診療所駐車場

開催日時：現在は日曜開催 11:00～無くなり次第終了

2月21日のフードパントリー：菓子パン、ドリンク缶など …中身は多少異なるとのこと。



今回の自分の大まかな流れ：待機→食品配布→会場撤去作業→反省会→解散

2月21日(日)にあじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。10:00過ぎに会場に着くとすでに利用者が10人は並んでいるのを確認できた。開始1時間前から並んでいることになるため、さすがに私も驚きを隠せなかった。親子連れが1組で、それ以外はやはり高齢者が目立った。それに、先頭に並ぶ高齢女性はいつも同じ人な気がする。配布準備はすでに終わっている様子だった。そのため、開始時間11:00までスタッフは待機とのことだった。開始10分前に、参列者の人数を数えてみたところ、100人は超えていたことには非常に驚いた。驚きの余り、写真におさめることにした。写真を見る限りでもやはり高齢者が随分多い。列の最後尾が道路に飛び出てしまった時には、利用者たちにはUターンして並んでもらった。



定刻の11:00になり、様々な年代の人に食品を手渡した。今回はなんと7、8分で、用意したおよそ150食分全てを配布した。怒濤の勢いだった。参列者に渡した終えてもまだ用意分はなくなり、フードステーションの前をたまたま通りかかった人に渡した時もあった(昨年8月)が、現在となってはそれもないし、むしろできない。そしてこの日、わいわいのフードパントリーに携わって来て過去1番に衝撃的だった出来事があった。わいわいでは1世帯1袋のルールである。しかしとある高齢女性が、1袋もらってもなお再度列に並び袋をもらおうとし、案の定スタッフに断られたのに、周りの目を盗んでから1袋奪うようにして小走りで去っていったのだ。善意による活動に対するあるまじき行為であると思うし、2度と見たくないし、非常に嫌な気持ちになった。この件については、反省会で共有したと

ころスタッフ全員が驚愕していた。

その後は会場の撤去作業へ移った。使った長机をあじま診療所の2階まで運んだ。エレベーターを使って運んだもののなかなか重かった。片付けも済んだところで反省会をした。あるスタッフから、「早くから並ぶ高齢利用者が立ったままで疲れると、壁にもたれかかっている様子が見られた。その対策が必要ではないか」という意見があった。しかし、他のスタッフからは「早くから並ぶことを厭わず食品がもらえることを嬉しく思う人が自己責任で並んでいることだから、対策はしなくてもいい」という声もあがった。確かに私も、そこまでしなくてもいいのではないかと正直思った。

今回は驚異の7分での配布完了ということで、来週の上飯田と来月の味鋤の配布がどうなるか気になるところだ。今後もどんどんわいわいのフードパントリーに関わっていこうと思う。

名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2020年12月6日フードパントリー報告

2020/12/23 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：あじま診療所駐車場

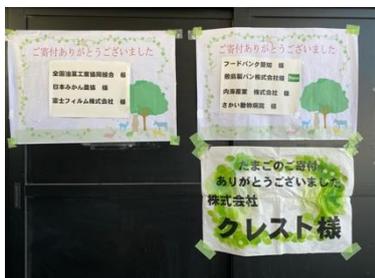
開催日時：現在は日曜開催 11:30～無くなり次第終了

12月6日のフードパントリー：野菜、果物、卵、レトルトカレー、菓子パン、乾麺、パウチジュース、ゼリー、お菓子、キャラクターグッズ…中身は多少異なるとのこと。



今回の自分の大まかな流れ：会場設営準備→食品配布→会場撤去作業→反省会→解散

12月6日(日)にあじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。10:30頃に会場に着いた時には会場設営が進められていた。開始11:00まで主に私は、ガレージシャッターに受付装飾を貼り付け、次回開催のお知らせの紙を袋に入れ、ドライブスルー用テントを立て、壁に食品寄付へのお礼装飾を貼る作業をした。配布開始直前には、相変わらずすでに多くの利用者で列ができていた。高齢者の利用者が多いことは目に見えて分かった。



受付装飾(左上)
お知らせの紙の入った袋(右上)
お礼装飾(左下)
利用者の行列(右下)

今回は、配布開始から約10分ほどは並んでいた利用者へ一気に食品配布し、残りの時間

でじわじわと用意分全てを配布しきった。卵は袋の中で割れてしまわないようにと、袋には入れず、別で手渡しした。配布する合間には、杉崎さんから実際の子ども食堂運営に関すること(特に子ども食堂寄付金の募集状況や給食食器寄付をしてくれる企業について)を教えてもらえた。地元小牧の子ども食堂立ち上げにしっかり活かしたいと思う。

また、たまたま今回は、子どもへはクリスマスプレゼントとしてお菓子の詰め合わせも配布した。その場にいた子どもだけでなく、来られなかった兄弟姉妹分もお菓子をあげた。

わいわいのフードパントリーでは原則1世帯1袋がきまりであるが、明らかに1世帯であるのに2袋以上もらって行こうとする利用者もいる。そういった行動をとる利用者への対応については、黙認することもあるが、強く言うこともはばかれるので、葛藤することが多い。どうしようもないことだとは思いつつも、今後の課題点だ。

今回の配布に限ったことではなく、配布開始すると一斉に参加者が袋を目掛けもらいにくるので、その圧や「次々並んで待っている人がいるから)はやく配らなければ…」という焦る気持ちが付きまとうことが多いため、直せれば直したい。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2020年11月28日フードパントリー事前準備報告

2020/12/23 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生協すまいるハートビル2F

開催日時：現在は日曜開催(土曜日に袋詰め作業、日曜日に配布) この日は10:00~1時間半ほど

11月29日配布分の中身：野菜、果物、レトルトカレー、菓子パン、乾麺、缶詰、ゼリー、お菓子、キャラクターグッズ …中身は多少異なるとのこと。



パッケージの印字ミスのため、寄せられたレトルトカレー。正しいパッケージを印刷した紙も袋詰めした。
(アレルギー持ちの人に対して、商品表示ラベルが必要だと判断したそう)

菓子パンは、袋の中で潰れないようにと、翌日の配布直前に袋に入れることになった。



今回の自分の大まかな流れ：袋詰め準備→袋詰め作業→宣伝カーでアナウンス活動→解散

11月28日(土)にわいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。コロナ感染が増加し、やむなく翌日29日の子ども食堂を中止し、フードパントリーに切り替える運びとなった

ていた。28日のこの日は翌日のフードパントリーに向けた事前準備を行った。

10：00頃会場に着いた時には、袋詰め開始に向けた準備が着々と進んでいた。楕円形に配置された長机には、大量の食品が並べられていた。

今回は、急遽子ども食堂からフードパントリーへの切り替えとのことだったが、配布するものの種類が比較的多かったため、短期間でこれだけの量の食品を集められるわいわいは一言ですごいとしか言いようがない。そして、水野さんから何をいくつか袋に詰め込んでいくかの説明を受けてから、実際に全員で流れ作業で袋詰めに取りかかった。

杉崎さんは私に、今回も宣伝カーに乗ることを進めてくださったため、10：00過ぎに私だけ袋詰め作業から抜けて、宣伝カーによる地域へのアナウンス活動に参加した。「地域の皆さん、こんにちは。こちらわいわい子ども食堂です。明日、予定しておりました、食事の提供は、コロナウイルス感染拡大予防のため中止とし、食料品を無料で配布するフードパントリーを行います。明日11：30より北病院北側にて配布を開始します。配布するものはパンやおやつ、飲み物です。お子さんだけでなく、どなたでもお気軽にお越しください。」という事前に作っておいたカンペを連呼した。

11：30前に北医療生協に戻った時には、サポーターの大半が帰ってしまっており、主要メンバーの方々と雑談をしたのち解散という流れになった。水野さんが、我がゼミのコロナ禍の子ども食堂の実態調査の調査票を手に持っていらっしまったため、私の方からもお手数ですが解答よろしくお願ひしますとの旨を伝えた。翌日の配布には私は参加できないため、次回の参加時に詳しい話を伺おうと思う。

名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2020年11月1日子ども食堂報告

2020/12/23 中京大学 成ゼミ 3年 c318079 藤本涼花

開催地：あじま診療所駐車場

開催日時：現在は日曜開催 11：30～13：00(無くなり次第終了)

11月1日のメニュー：豚汁、おにぎり、いなり寿司、サラダ、果物、冷凍パイ



今回の大まかな流れ：待機→サンクスカード配布作業→ごはん→会場撤去作業→反省会→移動→搬入作業→解散

11月1日(日)、あじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。先月のあじまへは、子ども食堂再開の場に立ち会えなかったが、今回は2度目となる青空食堂である。9：30過ぎに会場に着いた時には会場の設営準備はすでに終わっており、テントや机、椅子は並べられている状態だった。前日のうちにテントなどの運び込み作業等済ませておいたらしい。サポーターは皆開始時間まで待機した。私もサポーターの人たちとお話ししながら受付時間の11：00頃まで待った。

11：00前には受付に並ぶ利用者が見られた。受付ではスタッフが利用者全員の体温を検温機で把握していた。コロナ感染予防のため、サポーターの大半がマスクを新たなものに付け直し、手袋をはめそれぞれ活動にあたった。また、利用者同士が向かい合って食事しないよう同方向に机配置された。しかし、家族などの身内かつ5、6人と多数での利用者たちは例外とし、向き合って食事していた。



同じ方向に設置された机で食事する利用者たち(左)
机をくっ付けて食事する家族連れの利用者たち(右)

今回も使い捨て食器や紙コップが利用された。エナジール株式会社さんからも、サーマルカメラ(体温測定カメラ)の持ち込みがあった。



サーマルカメラ

受付が始まると、番号札の順番に利用者を席へ案内し、料理が出来上がるまで座って待ってもらった。その間に私は、食事提供を待つ利用者一世帯ずつにサンクスカードの説明とアンケート協力をお願いをした。利用者は、1世帯に1つずつ食品の入った袋をもらっていた。袋の中身は米や即席スープなどささやかなものだった。子どもの利用者にはスナック菓子などのプレゼントもあった。



箱の中からお菓子を選ぶ子どもの様子

11:30 前に診療所内の調理室から屋外へと豚汁の大鍋などが運び込まれ、利用者へ食事が提供されていった。今回の主食は、いなり寿司2つとコンビニおにぎり2つという、なんとも炭水化物豊富なレパートリーだった。幼い子どもが4つ全て食べきれないことは承知だったため、事前にサポーターが利用者たちへいなり寿司とおにぎりがいくつずつ必要か、聞き取りをしていた。



盛り付けと配膳するスタッフの様子

9月27日のわいわいの反省会にて議論となった、食事提供の際は「お盆から食器類を1つずつ移動させるか」「お盆ごと食事出するか」については、前者に決まった。厳密には、「(利用者にお盆から食器類を1つずつ受け取ってもらう)」ことになったようだ。また、私が同日のわいわいの反省会にて意見したことにより食事提供におけるダブルブッキングがあったが、今回のあじまわいわいでは、見たところ大きなダブルブッキングはなさそうだったため安

心した。わいわいでの課題点は見事、改善されたと思う。

以前から報告している、「子ども食堂の大人 300 円は高いから行かない年配男性」は今回も参加していた。もうすてに常連客のようだ。アンケートの協力を求めたところ、案の定、「字が書けない」の一点張りで残念ながら回答してもらえなかった。

作業の途中で私もごはんを頂き、食べ終わった頃には利用者の大半が帰ってしまっていたが、終了ギリギリまでサンクスカード配布をした。利用者も残りわずかとなったタイミングで、会場の撤去作業へ移り、全体で反省会を行った。今回の人数集計の報告は以下だった。

大人 38 人
子ども 42 人
高齢者 37 人
サポーター 40 人
合計 157 人

反省会では、利用者に配布したミニパントリーがあと 10 袋ほど足りず、最後の方の利用者には配布できなかったことが挙げられた。杉崎さんから私へ、サンクスカードに集められた声の一部を全体へ紹介するよう言われたため、4 件ほど抜粋して読み上げた。実際に、「メニューに〇〇が欲しい」「認知症の予防を教えてください」「シングルで子育てをしているので、みんなで一緒に食事できるのは助かります」「ひとり親世帯を支援してください」などの声があった。また、天気には恵まれたものの冷え込んでいたため、今回メニューの豚汁は「体が温まる」と大変好評だった。サンクスカードにもそういった声が多くあった。

反省会後は、わいわいが開催される北医療生協まで向かった。子ども食堂を開くため多く必要とする机や椅子は、北医療生協のものを使っている。私も成り行きで倉庫への搬入作業の手伝いをするため、車に乗せてもらい北医療生協に向かった。



机やテントなどの備品が詰め込まれた搬入用の車

これから徐々に寒くなることもあり、さらにはコロナの感染状況の見通しも立たないため、来月は子ども食堂にするかフードパントリーにするか決めかねているようだ。搬入作業も落ち着き、主要メンバーの方々と「次回も温かいものを提供しよう」「では、シチューにしよう」などと談話した。このように緩く献立決めをするのもわいわいの持ち味だと思う。次回の活動にも参加しようと思う。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2020年9月27日子ども食堂報告

2020/9/30 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生活協同組合北病院北側

開催日時：現在は日曜開催 11:30~13:00(無くなり次第終了)

9月27日のメニュー：カレーライス、ハムカツ、サラダ、ゼリー

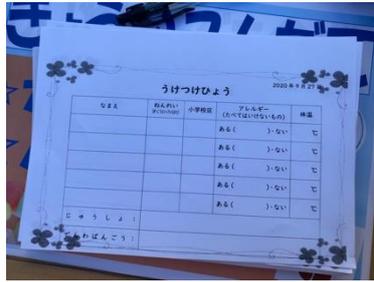


今回の大まかな流れ：会場設営準備→サンクスカード配布作業→ごはん→会場撤去作業→解散

9月27日(日)、わいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。フードパントリーから切り替える形で、約半年ぶりとなる子ども食堂である。屋外で食事提供をする青空食堂形式での開催だった。9:00過ぎに会場に着き、早速、会場の設営準備にとりかかった。私は、ホワイトボードのセット、長机の設置、机と椅子の除菌、テーブルマットの装着を行った。

前日の事前準備にて、杉崎さんが私へ宣伝カーに乗るよう勧めてくださり、10:00過ぎに近辺を車で巡りながらアナウンスをした。子ども食堂開催の誘致のみならず北医療生協では、宣伝カーの使用は日常的に行っているようだ。「わいわい子ども食堂です。北病院北側にて11:30から青空食堂を行います。子ども無料、大人300円、高齢者100円でなくなり次第となります。みなさん是非お越しください。」というカンペを事前に作り、マイクで連呼した。滅多にできない経験をさせてもらえたとし、満足のいく出来だった。また、機会があれば是非挑戦したい。

また、今回は様々な感染症対策がとられた。受付時には、利用者の住所電話番号と検温結果の記入を行った。同様にしてボランティアスタッフも行った。サポーターの大半は手袋をはめ、一部はフェイスシールドも付けた。フェイスシールドは特に利用者と接触の機会が多い、ホールスタッフ(ウェイター)や受付係がつけた。設置した3人掛け机は2人までの定員とし、さらにアクリル板も使用された。利用者同士が向かい合って食事しないように机配置された。あくまでもアクリル板は、席が他人同士で隣あう際のみに使われ、家族などの身内で隣あう際は、使わなかった。しかし、屋外開催で強風が吹いた際に、アクリル板が1つ飛ばされ破損してしまうトラブルに見舞われた。



受付票とアクリル板

感染症対策に当てはまるかは分からないが、普段であればプラスチックの食器を使うところを、使い捨ての食器やスプーンに変更した。

先月 8 月からわいわいをサポートしてくださる、エナジール株式会社さんからサーマルカメラ(体温測定カメラ)の持ち込みがあった。滅多に使うこともない装置を目の前にして、皆そわそわしていた。



サーマルカメラ

この日は何人か取材に訪れていた。NHK のまるっと！と中日新聞の記者の方だった。まるっとの放送日は未定、中日新聞は翌日の 9 月 28 日(月)に掲載があるとのこと。

11:30 頃から実際に利用者への食事提供が始まった。私は主に、ゼミ生としてサンクスカードを利用者に手渡しアンケート協力のお願いをした。他にも、お茶汲み、食器などのごみ捨てなども同時並行で行った。

そして、この日初めて「高齢者 100 円」の試みが実現された。以前報告した、「子ども食堂の大人 300 円は高いから行かない年配男性」も参加してくれており、私も実際にその男性と初めて話をすることができた。アンケートの協力を求めたところ、「字が書けないため代筆してくれ」と言われてしまった。男性からしたら、来月も来るか尋ねたら、「また来る」とのことだった。

私もごはんを頂き、食べ終わった頃には利用者がほとんど帰って行ったタイミングで会場の撤去作業へ移り、全体反省会を行った。今回の人数集計の報告は以下だった。

利用者 69 人
サポーター53 人
取材 5 人
合計 127 人
(利用者=子ども+大人+高齢者)



久々の子ども食堂であったが、
多くの寄付が集まった

反省会で議論となった 1 つは、提供の際に、「お盆から食器類を 1 つずつ移動させるか」「お盆ごと食事出しするか」であった。確かに前者については、少なからず人の手が介入するし、使い捨て食器がカレーライスの重みのせいで割れそうになったらしい。しかし、後者については、お盆 1 つずつの除菌作業が大変であることと、手袋をしていれば 1 つずつ食事をお盆から移動させるのは問題ないとのことだった。

私は先日保健所にて、手袋は使い方次第では手袋の役割を果たさないと教わった。つまり、他のものやウイルスのついたものに触ってしまった(手袋をつけた)手で立ち回っているのはむしろ手袋をつけているほうが良くない。今一度、手袋をつけていても油断は禁物であることを、サポーター間で危機管理の共有をするべきだと思った。

私にも全体の前で反省点を述べる機会があり意見したのは、食事提供のダブルブッキングについてである。要するに、私がオーダーをとったのちカレーを持って行くと、もうすでに利用者の元にはカレーが届いていたのである。これはサポーター間の連携が上手く出来ていなかった理由の他なく、作業として効率も非常に良くない。次回からの改善の余地がある。

しかし、半年ぶりとなる子ども食堂で改善点も残しつつも、慣れない状況の中で無事終わることができたという事実は前向きに捉えられるべきだし、次の開催をより良くする要素に繋がるのではないだろうか。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2020年9月26日子ども食堂事前準備報告

2020/9/30 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生協すまいるハートビル2F

開催日時：現在は日曜開催(土曜日に事前準備、日曜日に配布) この日は10:30~12:00

9月27日配布分の中身：野菜、飲料、即席みそ汁、キャンディ

今回の自分の大まかな流れ：袋詰め準備→解散



9月26日(土)にわいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。今日とはどのような作業をするか、特には告げられていなかったが、翌日の北医療生活協同組合北病院北側での青空食堂の事前準備として、袋詰め作業のお手伝いをした。普段通りのフードパントリーよりも中身は少なかった。翌日はあくまでも子ども食堂であるので、この日準備分の袋は利用者へ参加賞感覚で配布されるのだろう。10:30頃に会場に着いた時には、袋詰め開始に向け、準備が着々と進んでいた。食品を数え、大量の食品を机に並べてから、実際に流れ作業で袋詰めしていった。

この日は、300食も袋詰めした。翌日の150食分と翌月のあじまわいわいでの150食分である。野菜の人参がどうしても150本には満たなかったため、魚やパンの缶詰を代用とした。また、期限が近いためお断りしたそうだが、キャンディ1000袋を寄付してもらってこないかネットワークのほうから声がかかったそう。わいわいには代用とする食品が事足りていたり、ネットワークからも寄付の声がかかったりと、食品に恵まれた子ども食堂だと改めて思った。

翌日は11:30から青空食堂が始まる。開始1時間ほど前に例の宣伝カーを使い、地域を走るそう。「以前から宣伝カーが気になっている」旨を杉崎さんに伝えたところ、私も車に乗せてもらえることになった。地域住民の方がわいわいに足を運んでもらえるように上手く宣伝したいと思う。また、初の試みとして、「高齢者100円」の提供が始まる(過去、高齢利用者は「大人300円」に組み込まれていた)。これまでの高齢利用者はほんの数人であったが、金額の変更を受け、利用者の数にも影響があるか気になるところである。さらに、利用者受付の際は利用者へ手洗いと手指消毒の徹底を促し、検温器は4つ体制という万全の状態に臨むそう。もしかしたら体温検知用のサーモグラフィーも設置されるかもしれないとのこと。数ヶ月ぶりとなる子ども食堂再開に胸を弾ませつつも、かつてない体制で取り込まれる青空食堂である。明日もボランティアとして参加して、わいわいの新たな一面が見つけられたらいいと思う。

名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2020年8月30日フードパントリー記録

2020/9/2 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：あじま診療所駐車場

開催日時：現在は日曜開催 11:00~12:30(無くなり次第終了)

8月30日のフードパントリー：パック飲料、レトルトカレー、白米、菓子パン、卵、缶詰・お菓子・海苔・パック飲料等…中身は多少異なるとのこと。



今回の自分の大まかな流れ：会場設営準備→食品配布→会場撤去作業→反省会→解散

8月30日(日)にあじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。10:00頃に会場に着いた時には会場設営が進められていた。開始11:00まではガレージシャッターに受付装飾を貼り付け、食品寄付へのお礼装飾を貼る作業をした。配布開始直前には、相変わらずすでに多くの利用者で列ができていた。特に、ドライブスルー利用者が過去にないほどの待ち数で、歴代最多利用者数であった。写真には車が4台並んでいるが、さらに後続にも2、3台ほど車が大通りへはみ出してしまっている状態であった。そのため、交通整備に人手をより割くべきという意見が反省会で出た。



今回は、配布開始から約10分で並んでいた利用者へ一気に食品配布し、残りの時間でじわじわと用意分全てを配布しきるという綺麗な配り方(?)であった。そのため、「今回は過去1番上手に配れた」とサポーター一同口を揃えていた。

また個人的には、今回の利用者の顔ぶれに変化が見られていると感じた。中高生の子どもが1人でパントリーに訪れるケースが多かったと感じた。親御さんから「取りに行ってくる！」とでも言われているのかもしれない。

「子ども食堂の大人300円は高いから行かない」と嘆く年配の方がいることは、少し前からサポーター間で囁かれていた。しかし、「70歳以上は無料にする」とサポーターからその年配の方に伝えたところ、喜んでくれたそう。子ども食堂開催が急がれるところである。しかしながら、楠地区会館の施設を来年の2月(か3月)まで借りられないため、何とかして

あじま診療所の調理室を貸してもらえないか交渉中なのだそう。杉崎さんは、来月9月こそは子ども食堂をなんとしても開きたいという心持ちでした。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2020年8月23日フードパントリー報告

2020/9/2 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生活協同組合北病院北側

開催日時：現在は日曜開催 11:00~12:30(無くなり次第終了)

8月23日のフードパントリー：パック飲料、レトルトカレー、白米、菓子パン、缶詰 or お菓子、海苔 or パック飲料 …中身は多少異なるとのこと。



今回の大まかな流れ：会場設営準備→食品配布→会場撤去作業→解散

8月23日(日)、わいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。10:30頃会場に着いた時には、テントやテーブルはすでに設置されほとんどの準備は終わっていた。11:00頃にボランティアサポーター全体で自己紹介をし、11:30の開始まで待った。開始30分前からちらほら利用者が来始めていた。この日は大変暑い気候だったため、直射日光を遮るために大型のテントを3台も設置した。開始時間まで待機する利用者にとってはありがたい配慮だと思う。また今回は、テントにより多くの利用者が入れるように4列に並んでもらうことになった。開始直前には、いつもほどではなかったが、行列は確認できた。定刻通り配布開始した。テント(白)で待つ利用者と食品受け取り口テント(ネイビー)に少しばかり距離がありサポーターの「次の方どうぞ」の号令で各列の先頭の利用者が受け取り口まで取りに来るのが今回の形式だった。渡し方がこれまでと異なり少し新鮮だった。

いつも通り配布開始10分ほどは一気に利用者が押し寄せたのだが、それからはぴたりと



利用者の足取りは止まった。結局のところ、用意した160セットのうち半分の約80セットしか配布できなかった。余りは次週行われるあじまわいわいにて配布されるそう。用意分を全て配りきることができなかったのは今回が初めてのことだった。

前日のミーティングで危惧されていた通りの結果になった。利用者が少なかった原因は様々だろうし、一概にこれと判断はできかねる。子ども食堂からフードパントリーへの中止連絡不行き届きとめいほく保育園からすまいるハートビルへの開催場所変更がおおよその原因ではないかと杉崎さんはじめサポーターからも考えている。開催場所変更によって、めい

ほく保育園付近の毎月の利用者特に年配女性の姿が今回はなかったという。この 2 地点の距離としては、徒歩で 5 分ほどではあるが、この酷暑の中で足を運べなかったことも原因の 1 つなのかもしれない。来月 9 月のわいわいでは、用意した食品全て配布でき、この年配女性らの参加が見られればと思う。

名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2020年8月22日フードパントリー事前準備報告

2020/8/26 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生協すまいるハートビル2F

開催日時：現在は日曜開催(土曜日に袋詰め作業、日曜日に配布) この日は14:00~1時間ほど

8月22日配布分の中身：パック飲料、レトルトカレー、白米、菓子パン、缶詰 or お菓子、海苔 or パック飲料



今回の自分の大まかな流れ：袋詰め準備→袋詰め作業→翌日のミーティング→解散

8月22日(土)にわいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。翌日の北医療生活協同組合北病院北側での食品配布分の事前準備として、袋詰め作業のお手伝いをした。14:00前に会場に着いた時には、袋詰め開始に向けた準備が着々と進んでいた。円形に配置された長机には、大量の食品が並べられていた。



今回は160食分の袋詰めをすることになった。二手にわかれて80食分ずつ袋詰めをした。二手にわかれての作業は、作業の効率化だけでなく流れ作業で袋詰めする際になるべく密にならないための配慮かもしれないと思った。今回の配布は6点ということで、普段と比べ

少ないほうだったそう。そして、水野さんから何をいくつ袋に詰め込んでいくかの説明を受けてから、実際に全員で流れ作業で袋詰めに取りかかった。

15:00 前には 160 食分全て作り終わった。それから私は杉崎さんと一緒に冷蔵庫のお茶を注ぎ、全員に配った。そのまま翌日に向けたミーティングに移った。そのミーティングの中で不安視されていた事があった。それは、翌日 8 月 23 日が通常の子ども食堂の予定から急遽フードパントリーに変更となり、変更の連絡が利用者へ行き届いていないかもしれないことだ。8 月 6 日に愛知県独自の緊急事態宣言が出されたための変更である。わいわい HP と Facebook への変更の投稿、すまいるハートビル入口への変更の貼り紙はしたそう。しかし、変更の連絡を知らない人の中には、久しぶりの子ども食堂を楽しみにやって来る子どもたちもいるし、逆に、これまで行われてきためいほく保育園でのフードパントリーの利用者で「8 月はフードパントリーではなく通常の子ども食堂なら、行かない」と思う人もいるかもしれない。翌日を迎えないことにはその実態は分からないため、翌日の配布にもボランティアとして参加しようと思う。

名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2020年7月19日フードパントリー報告

2020/7/22 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：あじま診療所駐車場



開催日時：現在は日曜開催 11:00~12:30

7月19日のフードパントリー：野菜(にんじん、玉ねぎ、トマト)、菓子パン、缶詰、しめじ、カップフルーツ、パウチドリンク、非常用ビスケット、お菓子 …中身は多少異なるとのこと。



今回の自分の大まかな流れ：食品配布→会場撤去作業→解散

7月19日(日)にあじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。10:00過ぎに会場に着いた時にはすでに会場設営は完了していたため、開始11:00まではサポーターの皆さんとお話して過ごした。開始20分前からちらほら行列ができた。定刻通り11:00から配布を始めたところ、利用者が途切れることなく押し寄せ、開始15分ほどで100袋以上は配った。それからの利用者の足取りは緩やかであった。結局のところ、11:40ほどで用意した150袋分すべて配り終えた。そのあとにやって来た利用者には余っていた菓子パンを渡した。これは、せっかく足を運んでくれた利用者にも何ももらえないという心細い思いをさせない、というわいわい側の計らいであると思う。会場撤去をしてからは解散という流れだった。

今回私は怒ったおじいさんに配布した場面があった。「野菜が入っていないぞ」「ちゃんと袋の中に入っていますから」の会話を3往復くらいしてから、理不尽にも「ばかやろう」と捨て台詞を言われてしまった。のちにサポーターさんたちにこのことを話すと、「もしかしたらその人は認知症なのかもしれないね」と言った。いつものフードパントリーでは利用者の「ありがとうございます。いつも助かっています。」の言葉が印象的だったぶん今回の「ばかやろう」に対しては、そういった人もいるのだと受け入れつつも、やはり驚きを隠せなかった。

この日は杉崎さんと「味鋤も上飯田化してきている」という話をした。わいわい(上飯田)

のフードパントリーでは、150食を15分で配布するのが毎度のお決まりのようになっている。今回のあじまわいわいでも15分で100食以上は配布したあたり、味鉢の上飯田化は妥当といえる。杉崎さんは「味鉢でもフードパントリーのロコミが広がっている」からだと前向きに捉えているようだった。また、12:00までには150食分全てを配り終えてしまうため、11:00~12:30の表記を11:00~12:00に変更すべきではないかという声がサポーター間で上がっていた。完全先着順での配布ということもあり、時間内にもらえない利用者も出てくる。私は変更すべきだと思うし、事前配布の案内にも、早めに会場へ来るよう促す内容も書き足すといいと思った。

わいわいのフードパントリーでは、原則1世帯に1袋であるが、先頭に並んでいた5人家族が3袋ももらって行くケース、1人の男性が3周してもらって行くケースもあるようだ。なお、後者はわいわいにもあじまわいわいにも来るそう。確かに、もらえるものはもらっておきたいと思うのは人間の心理かもしれないが、私は少し悪質だと思った。フードパントリーとは異なり通常の子ども食堂ではその場で満腹感を得られるため、今回の問題点については、子ども食堂時には起こりえなかった事態である。しかし、杉崎さんをはじめサポーターさんたちは「きっと何かがあったに違いない。わいわいでの取り組みがそれだけと必要とされている」と捉えるようにしているようだ。つまり、私たちサポーターがどう捉えるか次第だといえる。非選別の取り組みを行うにあたって起こるケースとして仕方ないかもしれないが、多様性を受け入れる姿勢で利用者と向き合う形態こそわいわいの大きな特色であると思う。来月の8月23日に子ども食堂(上飯田)を再開することだが、最もコロナ感染へのプレッシャーがつきまとう。with コロナ時代であるとはいえコロナ感染が深刻化する今、子ども食堂再開は困難を極めるのではないだろうか。

「わいわい子ども食堂」活動報告 フードパントリー袋詰め作業

植野航史

会場: あじま荘の集会所

参加日時: 7月18日(土) 午後13時00分~午後14時30分

活動の大まかな流れ: 集合→配布物の確認→袋詰め作業→車への積み込み→片付け→解散

会場に着いた時には既に作業は始まっており、大量の段ボール箱から中身を取り出し、テーブルの上に並べる作業からお手伝いを始めた。トマトの小分け袋を作っている方もいた。一通り段ボールから配布物を取り出す作業が終わると、全体に向けて一つの袋に何を何個入れるのかの説明が始まった。

今回は、野菜、キットカット、レトルトカレー、缶詰、ビスケット、ドリンクやジュース、ドレッシング、お菓子、しめじ、マンゴーのフルーツカップなどを一つの袋に詰めた。野菜はじゃがいも、人参、玉ねぎのセットとトマトの袋を詰めた。トマトは潰れないように気を付けながらチラシと共に最後に袋に入れた。またパンは当日に入れるとの事だった。



私は袋詰めの作業と車に積み込む中継役を担当した。袋詰めの作業では、それぞれの配布物を一つの袋に入れ、車に積み込みやすいように段ボールの中に入れる作業だった。配布物が置かれているテーブルの周りをぐるぐると移動して袋詰めを行った。入れ忘れがないようにすることと、似たような組み合わせの袋ができないように気を付けて作業をした。お菓子やドレッシング、ジュースなどは全て入れるのではなく、ここから一つのように決められていたため、ドレッシングが何本も入ったり、重たいものを入れ過ぎたりしないように心がけながら袋詰めをした。またトマトを入れやすいように配置して袋詰めを行った。途中から車への積み込み作業が始まり、袋詰めと、積み込みが同時進行で行われた。



私は車に積み込む方に袋詰めされたものが入った段ボールを渡し、取りやすい場所に移動することを担当した。大きな段ボールが少なく、何袋もまとめる事ができなかったため、できるだけ多くの段ボールに袋を入れ、運びやすいようにした。入れすぎても段ボールが重くなったり、段ボールの底が抜けてしまったりする恐れがあったため、その都度「この袋、重たいです」や「底が抜けやすくなっています」などを伝



えた。150袋の袋詰め作業が終わり、車への積み込みも終わると、片付けや休憩に入った。

常に動き、立ったりしゃがんだり作業を繰り返していたため、汗だくになる活動だった。作業に集中していたため、落ち着いた時にいただいた冷たいお茶が物凄く美味しかった。片付け作業中は雑談をしたり、お菓子を食べたりと和やかな雰囲気だった。ゆっくりとお話ができるほどの時間は無く、続々と解散してしまったが、学生ボランティアの私と共に参加したゼミ生に多くのスタッフの方が気軽に声をかけてくださった。以前参加したことを覚えてくださっている方もおり、「この前はありがとうね」や「今日も手伝ってくれてありがとう」と声をかけて下さる温かい場であった。

フードパントリーは準備が大変とお聞きしていたため、今回袋詰めの作業にすることで少しは実感する事ができた。準備の大変さは袋詰めの作業だけでなく、寄付をくださる方の所に取りに行く移動や配布物をまとめて保管する場所の確保、どの配布物をどれだけ詰めるのかを考える事など多くの事前準備があるとお聞きした。当日のパントリーの活動だけでなく、準備や段取りなどの作業にも参加する事ができて良かった。「家に帰るまでが遠足」であるように、準備から片付けまでが活動であると思う。今回、わいわい子ども食堂のフードパントリーの活動に声をかけてくれた藤本さんや一緒に参加してくれた早津さん、駅から会場まで送り迎えをしてくださったスタッフや杉崎さんに感謝し、今後もささいな事でもお手伝いできればいいなと思っている。

2020/7/18 わいわい子ども食堂

早津美帆

袋詰め作業

場所：あじま荘の集会場

時間 13:00~14:30

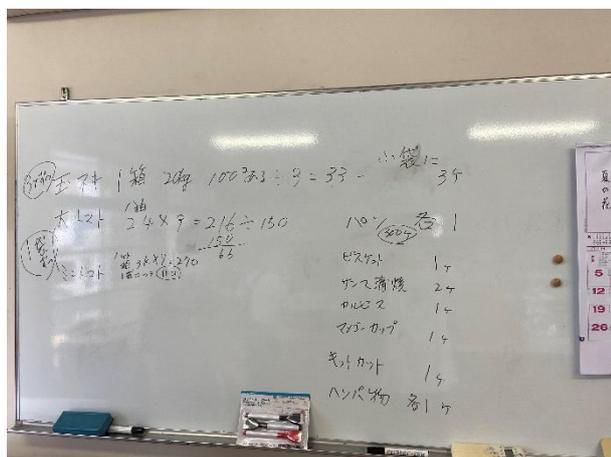
7月19日に配るわいわい子ども食堂の袋詰め作業に参加させていただいた。袋詰め作業は2回目である。今回は前回と比べて野菜が増えていた。まず、野菜(じゃがいも、にんじん、たまねぎ)を袋に入れる係、野菜が入った袋に他の物を入れる係、車に積む係で分かれ、私は野菜が入った袋に他の物を入れる係をした。じゃがいもとトマトは袋詰めする前に小分けにしていた。

他の物とは具体的には前回もあったレトルトカレー、缶詰(やきとりさんま)、ビスケット、キットカットと、前はなかった飲み物やドレッシングやしめじ、マンゴーカップなどである。パンもあったが袋には入れなかったので、当日入れるのだろう。最後につぶれないようトマトを入れ、チラシも入れて段ボールに入れる。その段ボールを車へと積んでもらう。段ボールは食品が入っていて空になったものを使うのだが、今回はあまり大きな段ボールがなく、小さい段ボールが何個もできてしまい、車に積む際大変そうであった。

前回と比べて野菜が増えた分重く、意外と力仕事だと感じた。藤本さんがパントリーの報告の時に、重くて子どもが持って帰るのが大変そうだと感じていたのを思い出し、確かに歩いて持ち帰る子どもには今回は重く感じるかもしれないと思った。

また、私がいいなと思った点は、前回もそうだが、全てが150人分あるわけではないので、袋によって入っている物に多少の違いがある点である。袋は白いため中身が見えないので、受け取ってからの楽しみという感じがして子どもは楽しいのではないかなと感じた。

作業中は無心で袋詰めをし、一段落したら少し全員で休憩して解散という感じで、ゆっくりお話を聞くことができなかつたのが残念であった。22日に授業で杉崎さんの講演がありよかつたと感じる。ゆっくりお話をする機会はなかつたが、前回も今回もスタッフの方に「助かつたよ」など言っていただけで、少しでも力になれたのだと思うことができ嬉しかった。コロナウイルスの影響でやはり子ども食堂に参加する機会が減ってしまったので、このように藤本さんに紹介してもらい参加することができてよかつた。コロナウイルスが収束するめどはまだまだ立たないので、これからも自分に出来ること



150人分を計算し、1袋に何個入れるかメモしてあるボード

撮影者：植野



マンゴーカップ

撮影者：早津

を小さいことでも見つけていこうと思う。



小分けにされたじゃがいも

撮影者：早津

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」

2020年7月12日フードパントリー報告

植野航史

開催地:めいほく保育園東駐車場

開催日時:7月12日(日)午前11時00分~午後12時30分

フードパントリーの中身:卵、白米、レトルトカレー、粉末スープ、缶詰、チョコレート、ビスケット(中身は全て一緒)

活動の大まかな流れ:会場設営準備→食品配布→会場撤去作業→振り返り→解散



10時頃に会場に着いた時には既に準備作業は終盤で、卵の袋詰めや会場設営を少し手伝う程度だった。卵はクレスト(株)からの寄付で、クレストの卵は新鮮・安心でよく食べるとスタッフの方から教えていただいた。クレストの他にもJ Aや名古屋防災センターからも寄付をいただいていた。開始前から多くの方が集まり、ロコミやSNSの情報伝達の早さや地域の認知度の広がりを感じた。今回も駐車場と50mほど離れた所の2箇所で配布し、離れた場所ではドライブスルー専用として配布を行った。一方通行の道路だが、開始前から車が並び出すと近所迷惑であるとのことから車でお越しの方は時間ぴったりにきていただくようお願いをしていた。

雨の日が続く中、当日は晴天で、マスク、アルコール消毒、ゴム手袋を付けて臨む活動は、暑さを感じるほどだった。熱中症や脱水症状、日焼けなどにも気をつけて活動しなくてはならないと感じた。車でお越しの方が増え始め、対応が追いつかなくなったため、3分ほど早くに配布が始まった。私は共に参加したゼミ生とスタッフの方とでドライブスルーの方を担当した。車の窓から”卵が割れやすく、缶詰とビスケットの賞味期限が近いのでお早めにお召し上がりください”とお伝えしながら配布を行った。ドライブスルーでは15袋ほどを配布し、残り5食ほどは足りなくなった駐車場の方で配布をした。今回も150袋を約10分で配布し終え、あっという間に片付け作業に取りかかった。初めてフードパントリーに参加させていただき、150食あってもすぐに無くなってしまいう配布時間の短さを体感した。袋を手渡しした際に”助かります”“や小さい子から”ありがと”とさせていただくこともあり、フードパントリーの活動が今の状況では地域住民にとって大きな支えとなっていると改めて感じた。



また、8月23日には上飯田のわいわい子ども食堂が再開するとのことで、学生も参加してほしいとのお誘いをいただいたため、予定が合えば是非参加したいと思う。

2020/7/12 わいわい子ども食堂

フードパントリー

場所：めいほく保育園

時間：10：00～11：30 頃

当日の流れは前日に用意した袋にお米と卵、チラシを追加する→広告の紙を掲載する→分担分けを行う→11時になるまで待機→配布→片付け→情報交換→解散 というものだった。私たちは10時につくように向かったが、すでに準備が進められており、少しお米を袋に入れる作業などを手伝わせていただいた。そのあとの分担分けでドライブスルーの担当になり、11時丁度からしか配布が開始できないため、袋に卵を入れたり、話を聞いたりしてすごしていた。ドライブスルーの配布について聞くと、近くに駐車場がないため、車で来る人にも渡せるようにという思いから取り入れられているようだ。



10時40分頃 様子

手渡しのほうは早い人で10時20分から並ばれていたようだ。分担分けは他に狭い道のため交通整理、並んでいる人への呼びかけなどがあり、学生が受け渡しの係となっていた。

ドライブスルーには11時前から何台か早く来たが、どこかで11時まで時間を潰してもらおうよう呼び掛けた。前回少し早く渡し始めるとどんどん早く来る車が増えてしまったため11時からしか配ってはいけないきまりができたことと、道が狭く待ってもらおうと起こる渋滞を避けるためである。しかし、11時の数分前に何台か並んでしまい通行したいだけの車に迷惑をかけてしまう場面も少しあった。11時になってからは次々に車が来て、卵が入ってるから気を付けてほしいということと、缶詰とビスケットが賞味期限が早いということをお伝えながら配っているとあっという間になくなってしまった。手渡しも合わせると150人分がたった10分でなくなった。

フードパントリーに参加するのは初めてだったが、150人分もあり、1家族1つにも関わらず10分でなくなるというのは驚きだった。ドライブスルーの担当だったため手渡しの様子はわからないが、次々と車がきて、ありがとうございますと言って受け取ってくださる人が多く、需要があるということを感じた。また、多くの人があるのには口コミによってだという話を聞いた。主婦の方などが「食品を配ってるよ」など宣伝して広がり、今では150人分が10分でなくなるほどの人が来ている。中にはただで食品がもらえるから年金生活のためありがたいという意見もあったようだ。

フードパントリーだと子ども食堂のように子供だけで来るケースも少ないようだ。フードパントリーと子ども食堂で対象が違うため比べにくいですが、子ども食堂にすぐ戻さなくても、フードパントリーでも需要は十分あるのということが今回参加して特に感じたことである。



←袋の中

ビスケット3つ、缶詰（さんま2つ、やきとり1つ）キットカット1つ、レトルトカレー1つ、インスタントスープ3つ、お米、卵

撮影者：植野

わいわい子ども食堂報告書

岸田彩里

開催日：2020/07/12

開催日時：午前 11 時～午前 12 時半

開催場所：めいほく保育園東駐車場

内容：フードステーション

配った物

- ・米
- ・缶詰め（さんま、やきとり）
- ・ビスケット
- ・レトルトカレー
- ・たまご
- ・キットカット
- ・乾燥味噌汁
- ・乾燥スープ



寄付

- ・JA（米）
- ・株式会社クレスト（たまご）
- ・名古屋市防災センター（防災食品）



〈前日準備〉場所：あじま荘集会所

前日準備では、ビスケットなどの当日配る物をそれぞれ袋に詰める作業をした。袋詰めをした数は全部で 150 個だった。学生ボランティアは成ゼミ 3 年の 3 名しかいなかったが、わいわい子ども食堂の運営の方が事前に準備をして下さっていたおかげで、約 15 分で全ての作業が終了した。

〈当日〉場所：めいほく保育園東駐車場

当日は開始時刻の 1 時間ほど前に準備が行われた。天候が心配されていたが当日は奇跡的に晴天で、準備が非常にはかどった。当日参加していた学生ボランティアは、中京生 6 人（成ゼミ含め）と南山大 2 人の計 8 人だった。

今回のフードステーションは食材を配る方法が 2 つあり、一つは徒歩で来てくれた方に手渡しする方法、もう一つはドライブスルーのように車で来てくれた方に手渡しする方法であった。前者は一般的な配布方法であるが、後者は新しい方法で非常に驚いた。わいわい子ども食堂は元々前者の方法のみであったが、これでは車で来てくれた方が近くの駐車場に止めざるを得ない状況となってしまうため、近隣住民の迷惑になりかねなかったという。この問題を解決するために、ドライブスルー形式で配布するという方法を生み出したようだ。

私はドライブスルー形式で配布する役割になり開始時刻の 20 分ほど前から待機していたが、開始時刻前にもかかわらず、フードステーションの様子を確認するために車が何台も来た。それだけこのフードステーションは人気で地域にとって大きなイベントなんだと改めて思った。



開始時刻の 11 時になると一気に 5 台ほどの車が集まり、一気に忙しくなった。車はどんどん増え続け、ドライブスルー用に食材が入った袋は 20 個ほど用意されていたが、開始 10 分ほどでほぼ全て無くなってしまふほど大盛況であった。残り数個となった時点で、もう一つの配布場所の袋がほぼ全て無くなったため、余っているドライブスルー用の袋を追加した。しかし追加して 5 分も経たないうちにその袋も全て無くなり、フードステーションは大盛況のまま終了した。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2020年7月11日フードパントリー事前準備報告

2020/7/5 中京大学 成ゼミ 3年 c318079 藤本涼花

開催地：北区役所楠支所裏の市営住宅北あじま荘の集会所

開催日時：現在は日曜開催(土曜日に袋詰め作業、日曜日に配布) この日は13:30~2時間ほど

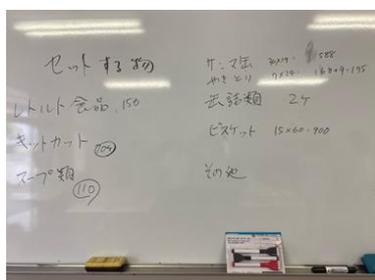
7月11日のフードパントリーの中身：レトルトカレー、缶詰、即席スープ、非常用ビスケット、お菓子…多少は中身が異なる。翌日これらに白米、パック卵を加えるそう。

今回の大まかな流れ：袋詰め作業→解散

7月11日(日)、わいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。翌日のめいほく保育園保育園にて食品配布分の事前準備として、袋詰め作業のお手伝いをした。13:00すぎに会場に着き、早速袋詰めにとりかかった。水野さんから何をいくつか袋に詰め込んでいくかの説明を受けてから、実際に私たちも流れ作業で袋詰めした。机の上には大量の食品が並んでおり、初めての光景に圧倒されたが、今回の食品詰め込みの量は比較的少ない方だということ。確かに、先月のわいわい、あじまわいわいのフードパントリーの中身には野菜がゴロゴロ入っていた。結局1時間もかからず袋詰めは完了した。袋詰めしたものはダンボールに入れられ、そのまま車に運び込まれた。会場の窓から車のトランクへスムーズに運ばれる様子を見て、会場のつくりを把握した上で会場選びしたのではないかと考えた。

今回はもう1人学生さんが参加する予定だったそうだが、密を回避するために杉崎さんのほうからお断りをしたそう。袋詰めの際も、水野さんが「そこ！ソーシャルディスタンス！（気をつけて！）」と注意喚起していた。

私は袋詰め作業への参加は初めてだった。フードパントリーは食材調達から袋詰め作業そして当日を迎える。日にちをかけ多くの工程を踏まなければならないあたり、子ども食堂とはまた異なる大変さがあると事前に伺っていたものの、やはり時間も場所も食品もボランティアも様々な事柄が必要条件であると実感した。今まではわいわい、あじまわいわいともに当日の食品配布の参加しかしてこなかったが、今回、フードパントリーにおける一連の流れに携われる良いきっかけになった。



2020/7/11 わいわい子ども食堂

袋詰め作業

場所：あじま荘の集会所

時間：13：00～13：15

12日に配るわいわい子ども食堂の袋詰め作業に参加した。予定では2時間くらいだと伝えられていたが、お米を分ける作業は前日にさせていただいていたようで、私たちは袋に缶詰（さんま、やきとり）非常用のビスケット、レトルトカレー、インスタントスープ、地域限定キットカットを袋に決められた個数入れてく作業を手伝った。いつもはこれらに加えて野菜もあるそうだが、150人分作るため時間がかかるかと思ったが、人数も多く、袋に入れていくだけであったので、すべて終わるのに15分ほどで終了した。袋詰めしたものは段ボールの中にまとめて入れ、それを車に積む作業も同時に行われており、いつもよりも早く終わったようだ。



レトルトカレー 150食分↑

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2020年6月21日フードパントリー報告

2020/6/24 中京大学 成ゼミ 3年 c318079 藤本涼花

開催地：めいほく保育園東駐車場

開催日時：現在は日曜開催 11:00~12:30

6月21日のフードパントリー：白米、レトルトカレー、野菜(玉ねぎ、にんじん、じゃがいも、ナス、キュウリ、トマト)、お菓子 …中身は多少異なるとのこと。



今回の大まかな流れ：会場設営準備→食品配布→会場撤去作業→解散

6月21日(日)、わいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。10:00頃会場に着いてからは日除けテントやピクニックテーブルを立て、開始の11:00まではお馴染みのサポーターやはじめましての学生サポーターと喋った。開始30分前くらいから既に行列ができて始めた。前もってフードパントリーが行われる情報を把握して来てくれた人ばかりだろう。結果的に行列は会場から隣の公園まで至り30メートルほどになった。



サポーターは皆、マスクやゴム手袋を付け万全の体制で11:00ちょうどに食品の配布を始めた。ものすごい量の利用者が雪崩のように押し寄せて来て圧倒された。配布するブースが2箇所設けられる理由に納得がいく。配布する際には「重たいので気をつけて持ってください」「野菜は早めに召し上がってください」と一言声をかけた。私は中京の友達とわいわいのベテランサポーターさんの3人で配布していた。やはりベテランさんは顔が広い方のようにこの地域に知り合いが多らしく、利用者の誰が経済的に困っているかまで把握しているようだった。わいわいのフードパントリーでは原則1世帯につき1袋だ。しかしそのベテランさんは、4人ほどの若者の集団(おそらく彼らで1世帯か)に対し「あんたたちは多く持っていきなさい」と3袋ほど手渡していた。私はこの行為は特に問題ないと思うし、むしろ本当に困っている人のもとに食品が手渡されるのは真っ当な理由だと思う。私たち学

生とは異なり長らくキャリアを積み重ねてきたベテランさんのすごさを改めて今回見ることができた。

最終的には、用意した150食分を開始10分ほどで配り終えた。まさに以前番組でわいわいが紹介されていた通りだった。あつたはずの食品の袋があつという間になくなってしまいうし、子どもたちとも会話しないため、やはり通常の子ども食堂とは異なり味気なく呆気ないと感じられた。それからは会場の撤去作業を行いながら愛知学院大学の学生さん2人と喋った。彼女らは8、9月頃から子ども食堂を立ち上げるらしく準備の方も万端とのことだ。開催日には是非足を運びたいと思う。

前回参加した味鉢でのフードパントリーと異なっていたのは、上飯田のほうでフードパントリーの取り組みが地域に根ざしている点だ。活動が老若男女問わず地域の人にしっかり認知がされているようだ。上飯田地区には団地があるため、わいわいの口コミが広がりやすく利用者もそれだけ多いとのこと。また、味鉢より上飯田のほうで早くから拠点を持っているのも理由の1つかもかもしれない。どちらにせよ、今はフードパントリーが地域をつなぐ手段となっているが、通常の子ども食堂を心待ちにしている人もいるはず。勿論フードパントリーを否定する訳ではない。だが先述した味気ない呆気ないフードパントリーから通常の子ども食堂への移行が早々に行われるべきだと思う。



名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2020年6月7日フードパントリー報告

2020/6/10 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：あじま診療所駐車場

開催日時：現在は日曜開催 11:00~12:30

6月7日のフードパントリー：トイレットペーパー、即席スープ、レトルトカレー、パックごはん、缶詰、菓子パン、玉ねぎ、お菓子、手作りマスク



手作りマスクはトヨタ自動車さんから
ご当地キットカットはコロナにより閉鎖を受けた空港から

今回の自分の大まかな流れ：会場設営準備→簡単な袋詰め作業→食品配布→会場撤去作業→解散

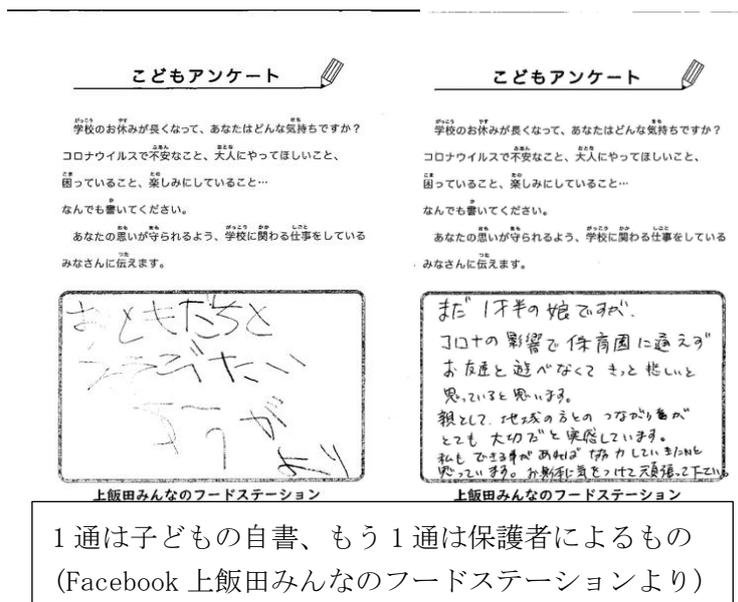


6月7日(日)にあじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。9:30 ごろに会場に着き、開始 11:00 まではガレージシャッターに受付装飾を貼り付ける作業とすでに食品類が袋詰めされた袋に生活相談場所一覧のチラシを入れる作業をした。11:00 より前から6、7人ほどの行列を確認した。事前にフードパントリーが行われる情報を把握して来てくれた親子連れや若い男性やご高齢の方もいれば、たまたまフードステーションの前を通りかかった人もいた。様々な年代の人に食品を手渡しした。今回は 12:30 を待たずして用意した 150 食分全てを配布することができた。それから少しの間幼稚園の男の子の遊び相手をした。どうやらこの子はフードステーションと同時に開かれていた生活相談コーナーに相談しに来られた母と姉を待っていたようだ。その後は会場の撤去作業へ移った。

150 食もの食品を袋詰めするには多くの人手を要すると事前に運営代表の杉崎さんから伺っていた。しかし、私はこの日食品の袋詰めをするつもりで来たものの既に前日に済ましていたとのことだった。恐らく伝達ミス。結果的には初フードパントリーを経験でき満足。わいわいのフードパントリーは、中京テレビのキャッチで取り上げられていた。見るから

になんとも重そうな食品の袋を2つも配布している様子が印象的だったが、今回の配布は1袋だった。しかしその1袋が大人の私でも十分重たいと感じたため、子どもが1人で持ち運ぶのは困難だと即座に判断できた。番組では150食分をわずか15分で配布し切ったとあったが(上飯田)、今回は1時間かけてじっくりと配布した(味鋤)。上飯田と味鋤とでは配布に地域差があるようだ。

実際には袋を自転車のカゴに入れて持ち帰る親子連れが多かったが、子どもたちだけの集団で来る様子は一切見受けられなかった。また、従来の子ども食堂に来てくれていた子どもたちも取りに来た様子はなかった。未だ続く自粛ムードのせい、開催連絡が行き届いていないか。理由は様々であれど、わいわいでは任意でメッセージカードを書いてもらう試みを行っている。手渡す食材の袋の中にメッセージカードを一緒に入れ利用者には次の開催日に持ってきてもらうのだ。このメッセージカードはわいわいと利用者のつながり無くさないためにもわずかながら効果的な試みといえそう。また、わいわいサポーター間が途絶えないようにと深く議論を尽くしたそう。変わらずいきいきとした馴染みのサポーター方の姿を今回の久々の参加で拝見できて良かった。



杉崎さんからテレビ取材の後日談を教えてくださいました。メディア掲載としてわいわいに撮影が入った時間が約2時間だったのに対し、実際の放送は30秒ほどであったらしい。確かにテレビ放送でわずか30秒でも視聴者に子ども食堂の認知は進むとは思いますが、「自分には関係ない、縁がないこと」「気軽には行きにくい」という意識が生じたり現実感が湧かなかったりするのではないかと。子ども食堂は思っている以上に身近な存在であるという理解が視聴者へ行き渡るべきである。そのためにも多くのメディア掲載で子ども食堂の活動が日常的に取り上げられるのが好ましいと考える。30秒の枠以上に、より分量の多い子ども食堂訪問記やノンフィクション番組といった制作が行われてほしい。

たまたま通りかかった人(おそらく地域住民か)に食品の袋を渡したところ、「何かお礼を…」と戸惑っていた。この人がわいわい並びにフードパントリーに疎い人であることは一目瞭然であった。北区を中心に2015年からスタートしたわいわいを未だ知らなかった人もい

た事実を認識したとともに、もっとわいわいをはじめ、市民活動について知ってもらいたいと思った。

今回改めてフードパントリーに参加し、わいわいでは子ども食堂とフードパントリーは別物と捉えているように感じた。子ども食堂が「子どもが1人でも来られるように」に対し、フードパントリーは「まず地域から」とそれぞれに形がある。しかし、子ども食堂あるいはフードパントリー利用者からさらに困っている人へと橋渡しができ1人でも多くの人を専門機関へつなげられたら、という思いはどちらにも共通して根底にあると思う。

わいわいはコロナ危機が去った後もおそらく存続は可能だと思われるが、コロナに打ち勝てず生き残れない子ども食堂も少なからずあるはず。子ども食堂が存続するためにはどうすればよいか検討の余地があるのではないかな。



名古屋市北区「あじまわいわい食堂」 2019年12月7日子ども食堂報告

2019/12/11 中京大学 成ゼミ2年 c318079 藤本涼花

開催地：楠地区会館

開催日時：原則第1水曜日のあとの土曜日 11:30~13:00

12月7日のメニュー：オムライス、クリームシチュー、トンテキ、サラダ、クリスマスケーキ(無くなり次第終了)



今回の大まかな流れ：杉崎さんとお話し→受付→食事→食器拭き→反省会→解散

私は12月7日(土)にあじまわいわい食堂にボランティアとして参加した。私は9:30頃に会場に着き、運営代表である杉崎さんとお話をした。「藤本さん、せっかく子ども食堂に来てくれるのだし、何か1つ視点を持って子ども食堂に関わるといいよね」とのお言葉をいただけた。また、私が杉崎さんに公務員や児相について尋ねた際には、杉崎さんは「寺井さんが児相に勤めていたから色々聞くといいよ」とおっしゃった。寺井さんからも児相について概要を教えていただいた。まだまだ公務員や児相について知りたいことが多くあったため、次の活動でもお話を伺えればと思う。やはり、その道の方からお話を伺えることは大変貴重であると改めて思った。なんだかんだで杉崎さんとは1時間ほどお話ししていたことに気づき、時間が経つのが早く感じられた。

杉崎さんからの指示で、私は受付を担当することになった。今回は子どもを対象に「食事を終えて帰る前に、このシールとお菓子を引き換えるから、無くさないように服に貼っておいてね」と名前シールを書き、渡す役割だった。



受付 (サンタさん)

水野さんが私に食事をするよう促して下さってからは、学生ボランティアとサポーターの方々と一緒にご飯を食べた。今回は珍しく私以外に学生ボランティア2名が参加していた。2人に話しかけてみたところ、名城大学人間学部1年の学生だった。うち1人が向井さんのボランティア入門の講義を受けており、さらに、11月5日にゲストであった杉崎さ

ん(と私)の講義を受けた学生とその友達だった。その講義を受けて、子ども食堂に行ってみたいと思ったそうだ。来月も来てくれるそうなので是非来てもらいたい。

食事を終えてからすぐ、食器拭きの手伝いに加わった。拭いた食器類はケースに戻した。周囲を見回していたところ、ベテランのボランティアの方々は本当に片付けの動きが素早く、自分は下手な真似はできないと感じたり、自分がすべきことを見つけられなかったりと反省すべき点が見つかった。次回は上手く立ち回れるようにしたい。

同週水曜日のわいわい子ども食堂と同様に、このあじまわいわい食堂でもバルーンアートショーやマジックショーが体育館にて行われていた。



マジックショー

また、先月 11 月からこの楠地区会館から子どもたちへ文具やおもちゃの寄付が始まったそうだ。クリスマスという一大イベントということもあって、大変賑やかで豪華な回だった。

また、このあじまわいわい食堂には何度か参加しているということもあって、顔見知りのサポーターさんが増えたと実感している。冗談が通じる男性のサポーターさんや豆知識を教えてくれる女性のサポーターさんなど数名と仲良くなれた気がする。異世代の人たちとの交流ができていくことが楽しいと思える。あじまわいわいに通ってて良かった、と大いに感じられる瞬間である。

片付けが終わったところで、反省会へ映った。今回の人数集計の報告は以下の通りだった。

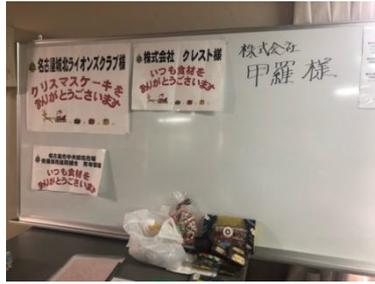
子ども 85 人、大人 40 人

合計 125 人

サポーター 37 人 (+ライオンズクラブさんからさ 10 人くらい)

総合計 172 人

今回も中々の人数であったことが窺える。今回の寄付には写真にもある通り、名古屋城北ライオンズクラブさんからはクリスマスケーキ 150 食も提供があった。あいち子ども食堂ネットワークへ 150 万円もの寄付をされた甲羅さんからは(子どもたちへのプレゼント用)のお菓子の提供があった。毎回たくさんの寄付があるのはありがたいことだ。



提供

前述した杉崎さんのおっしゃった通り、子ども食堂へ関わっていく上での視点のを見つけていかなければならないと思った。

名古屋市北区「わいわい子ども食堂」

2019年12月4日子ども食堂報告

2019/12/11 中京大学 成ゼミ2年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生協すまいるハートビル 2F

開催日時：毎月第1水曜日 17:00~19:00

12月4日のメニュー：クリームシチュー、オムライス、トンテキ、サラダ、クリスマスケーキ(無くなり次第終了)



今回の大まかな流れ：食事席数把握、伝達、誘導→食事→食器拭き、洗い→反省会→解散

私は12月4日(水)にわいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。今回はクリスマスイベントということもあり、私が18:00頃会場に着いた時には、バルーンアートショーが披露されていた。バルーンアートショーのあとはマジックショーが行われた。利用者が食事をしながらショーを見るスタイルだ。また、普段であれば食事スペースの一角に設けられた受付が廊下へ移動させられていた。それは、今回はショー用の仮設ステージが設置されたため、少しでも食事スペースを広く確保しようという試みであった。ちなみに、クリスマスケーキ170食とバルーンアートショーの提供は名古屋城北ライオンズクラブさんからのもので、マジックショーにおいては、マジックを趣味としている名古屋市職員である小川さんが披露してくださった。



バルーンアート



マジックショー



提供

私がもらった役割は、空いた食事席数把握をしそれを受付まで伝達、そして利用者を席まで誘導する、というものだ。その合間に、利用者が食べ終わった食器を下げたり、食事を済ませ席で長居する利用者をステージ下まで移動するよう促したりもした。

食事を頂いたあとは、食器拭きと食器洗いに移った。先に食器拭きをしていたが、拭く食器がなくなったため私は食器洗いに移った。しかし、洗剤をつけたスポンジでこすっても油のギトギトが落ちない食器があったり、食器洗い自体に慣れていなかったりとでタイムロスしてしまったと個人的には感じた。そのため、これからは食器拭きにのみ徹しようかなと

も考えている。

反省会では、人数の集計報告がされた。以下の通りである。

子ども 141 人、大人 43 人
合計 184 人
サポーター42 人、見学 2 人
総合計 228 人

今回の参加人数は脅威の 150 人超えであった。反省会ではプラスな意見とマイナスな意見の両方がいくつか挙がった。1 つ目は、大人利用者への伝達ミスである。「大人にケーキは付かない」という伝達が上手くできておらず、何人かのお母さんから「大人にはケーキは付かないのね…」というちょっとしたクレームが入ったことだ。こちらは改善の余地がありそうだ。2 つ目は、番号札制にして良かったことだ。普段であれば利用者で行列をなす食事配膳場所だが、今回の番号札のおかげで、配膳場所の混雑が一切なかった。ただ、番号札が 1 枚行方不明になってしまったのが少々痛手だ。3 つ目は、受付の移動である。食事スペースが受付があった分、広がったことはメリットである。しかし、受付の移動にはいくつかデメリットも存在した。廊下からでは受付の人が食事スペースの様子を見られない点、空いた席を受付まで報告する連絡係が受付と食事スペースを行き来する必要がある点などだ。連絡係の行き来をなくすのなら、スマートフォンで LINE 等を利用した連絡手段があれば解消できるのではないかと個人的には思った。

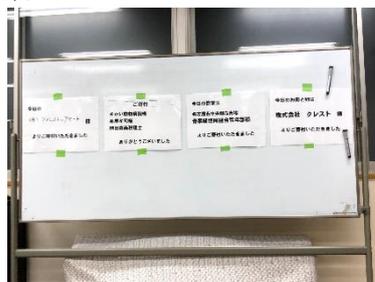
名古屋市北区「わいわい子ども食堂」 2019年11月6日子ども食堂報告

2019/11/13 中京大学 成ゼミ2年 c318079 藤本涼花

開催地：北医療生協すまいるハートビル2F

開催日時：毎月第1水曜日 17:00～19:00(無くなり次第終了)

11月6日のメニュー：芋ご飯、唐揚げ、豚汁、果物



今回の大まかな流れ：子ども見守り担当→食器拭き→食事→反省会→解散

私は11月6日(日)にわいわい子ども食堂にボランティアとして参加した。私は17:00前に会場に着き、まずは子ども見守り隊員として折り紙教室の担当をした。今回は、子どもと折り紙を作り、クリスマスカード制作をした。この折り紙教室は、食事提供が始まる直前まで行われる恒例のものとなっている。普段であれば子どもたちは完成した折り紙を持って帰る。しかし、今回はチェルノブイリ中部と東北の子どもたちにクリスマスカードを寄付することになっていたため、子どもたちへは「今回はポストカードの持ち帰りはできないけど、来月同じものを作って持ち帰りできるから、来月もぜひ来てね」と子どもたちには話した。



子ども見守り隊



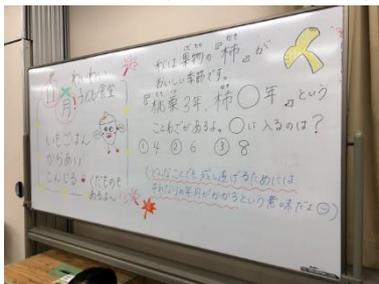
ポストカード

18:00頃に食事提供の時間が整ったところで折り紙教室の仕事は終わった。それからは、食器拭きの仕事に回った。2、3人のボランティアの方とお話をしながら、食器拭きした。「直近2ヶ月くらいの子どもの顔ぶれが変わったんじゃないか?」、「今日はいつもと違って利用者の行列がすごい、メニューが唐揚げだからかしらね」といった会話をした。

18:30過ぎに梅田さんと合流して、食事をいただくことにした。空いている机で食事をするよう促された。せっかく来たことだし、子どものそばでお話ししながら食事しようと思い、小学校高学年のいる机にお邪魔した。このタイミングでようやく会場の全体を見れたので、子どもたちの顔ぶれを確認してみたところ、先程も述べたように、子どもたちの顔ぶれが2ヶ月ほど前とは変わったように自らも感じた。食事を済ませて早く帰ってしまった子

もいるかもしれない。この日は受付業務には携われず、おおよその利用者の顔ぶれを確認できなかったため、個人的には来月は受付の担当をしたいと思う。

子ども食堂も終わりの時間が近づいていたこともあり、同じ机の子どもたちはすぐどこかに行ってしまった。しかしそのあとすぐ、柴崎さんが私たちのところへ来てくださり、お話しをした。彼女のコミュニケーション能力はすさまじく、彼女の口から出る言葉はどれも前向きなものばかりで、自分も楽しい気持ちになれた。連絡先の交換もできた。柴崎さんは、毎回ホワイトボードの装飾も担当しているらしく、ホワイトボードの半分はメニュー、半分は豆知識を書いて子どもたちの知的探求も刺激しているそう。



ホワイトボード

柴崎さんは、服飾関係のブランドについてのお話もしてくださった。1枚の無地Tシャツにオリジナルのペイントを施すイベントを開催するそう。柴崎さんとののちのLINEで11月23日(土)に開催すると教えていただいた。この日は都合がつきそうなので行ってみようと思う。柴崎さんは、19:00から子どもたちを家へまで送り届ける仕事があるとのことで、私たちとはお別れした。

それからすぐ、会場の片付けに入った。私はこのわいわいに参加するのは4回目ほどだが、この日はじめて最後まで残った。そのため、会場の片付けへの参戦は初めてだったが、指示や見よう見まねで机や椅子を移動させた。その後反省会へと移った。今回の人数集計の報告は以下の通りだった。

子ども 147 人、大人 41 人
合計 188 人
サポーター42 人、見学者 17 人
総合計 247 人

数を見てもらえば分かる通り、子どもの数が多かった。150人近くのにのぼる日はやはり、サポーター目線からでも「多い」らしい。先述した「今日のメニューが唐揚げだから」子どもの人数が多いという理由もあながち間違っていないと感じられる。また、今回は学生ボランティアの数も多かった。成ゼミ4年の先輩方や、社会学専攻・社会福祉学専攻2年の学生、インターンシップの学生など、いつもに増して参加人数が多かった。

代表の杉崎さんも、「最近はずいぶんからも、わいわいにお邪魔して子ども食堂がどんなものか拝見したい、という要望を持った人からの連絡が多い。ありがたいことではあるけれど、多すぎてお断りもしている」という話も聞いた。確かに、わいわいは愛知県内の子ども食堂のパイオニアでもあるし、なにより実績がある。わいわいの見学をしようとアポをとる人が多いのは最もだと思う。

このわいわい子ども食堂では、12月21日(土)より初の試みとして、朝ごはんの提供も始めていくとのことなので、ぜひ参加して、新しい雰囲気を味わいながら、これからもこのわいわい子ども食堂に携わっていただけたらと思う。